

超音波検査（血管領域）

概要

皮膚上から超音波を体内に当てて、血管（動脈・静脈）の形態や機能を調べる検査です。

検査方法

腕や足、首に超音波プローブを当て、血管（動脈・静脈）の観察をします。

検査で分かること

検査する部位により異なりますが、主に以下の評価を行っています。

1. 頸動脈

頸動脈は脳に血液を送る重要な血管であり、動脈硬化による動脈の狭窄・閉塞の有無やその程度を評価します。

2. 上肢動脈・下肢動脈

閉塞性動脈硬化症では、歩くと足が痛くなり休むと楽になるといった症状や、手や足の色調が悪くなるなどの症状がみられます。この検査では、これらの原因である動脈硬化による動脈の狭窄・閉塞の有無やその程度を評価します。

3. 上肢静脈

主に腕の表在にある静脈に血栓（血の塊）がないか調べます。

4. 下肢静脈

① 深部静脈

深部静脈血栓症では足の腫れや痛みなどの症状がみられます。この検査では、これらの原因である血栓の有無や血液の流れなどについて調べます。

② 表在静脈

下肢静脈瘤では足の血管が浮き出たり、足のだるさやむくみなどの症状がみられます。下肢静脈瘤は逆流防止弁の機能不全によって起きるとされています。この検査では、これらの原因である逆流防止弁に障害がないか、血液の流れや血栓の有無などについて調べます。

5. 腎動脈

腎臓を栄養している血管である腎臓脈が狭い、または閉塞しているかを調べます。また、腎動脈だけでなく、腎臓の中にある動脈についても調べます。

6. 大血管

主に大動脈や下大静脈を調べる検査です。大動脈瘤などの血管の異常、下大静脈の中に血栓がないか調べます。

注意事項

- ・超音波用ゼリーを付けて検査しますので、足の血管の検査の場合は下半身の衣服は脱ぎ、検査着（丈の短いズボン）に着替えていただきます。
- ・必要に応じて呼吸調整をさせていただくことがありますので、可能な限りご協力をお願いいたします。

所要時間

約 20～60 分程度 ※検査内容により異なります。



よくある質問

Q：被曝の心配はありませんか？

A：レントゲンや CT 検査のように放射線による被曝の心配はありません。妊娠中の方や乳幼児でも安心して受けることができ、繰り返し検査が可能です。

Q：検査は痛いですか？

A：基本的に痛みはありません。必要に応じて多少押すことがありますので、痛みがある場合には担当技師へお伝えください。

Q：ゼリーは何のために使うのですか？

A：皮膚と超音波プローブとのすき間をなくし、超音波が体内でよく伝わるようにしています。

Q：なぜ呼吸調整をするのですか？

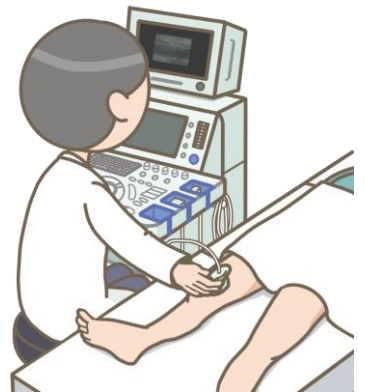
A：観察する血管の場所によっては数秒間息を止めていただくことにより正確な評価ができる場合がありますので、可能な範囲で呼吸調整をお願いしています。

Q：検査の体勢は決まっていますか？

A：座位や仰臥位など観察する血管の場所によって体勢を変えて検査を行っています。困難な場合は担当技師にお伝えください。

Q：検査した血管とは別の部位も見てもらえますか？

A：主治医からの依頼のもと、検査を行っていますので、基本的にはできません。また、調べる臓器や検査目的に合わせて、検査装置を調整していますので、別の部位の検査を希望する場合には、主治医へご相談下さい。



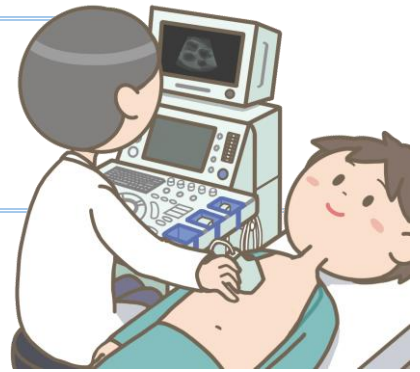
超音波検査（心臓領域）

概要

皮膚上から超音波を体内に当てて、心臓の形態や機能を調べる検査です。

検査方法

胸部に超音波プローブを当て、心臓および心臓に繋がる血管の観察をします。



検査で分かること

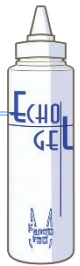
主に心臓の大きさや動き、弁の状態などを調べます。心拡大（心臓が大きくなる）や心肥大（心臓の壁が厚くなる）、弁膜症（弁の開閉の異常や弁からの逆流がないか）の程度などを評価します。

注意事項

- ・胸に超音波用ゼリーを付けて検査しますので、上半身は検査着に着替えていただくか、薄手の衣服になっていただきます。
- ・必要に応じて呼吸調整をさせていただきますので、可能な限りご協力をお願いいたします。

所要時間

約 15～30 分程度



よくある質問

Q：被曝の心配はありませんか？

A：レントゲンや CT 検査のように放射線による被曝の心配はありません。妊娠中の方や乳幼児でも安心して受けることができ、繰り返し検査が可能です。

Q：検査は痛いですか？

A：基本的に痛みはありません。観察する場所によっては骨のすき間に超音波プローブを当てる場合がありますので、痛みがある場合には担当技師へお伝えください。

Q：ゼリーは何のために使うのですか？

A：皮膚と超音波プローブとのすき間をなくし、超音波が体内でよく伝わるようにしています。

Q：なぜ呼吸調整をするのですか？

A：呼吸調整を行うことでより詳細に、正確な評価ができる場合がありますので、可能な範囲で呼吸調整をお願いしています。

Q：検査の体勢は決まっていますか？

A：基本的に左向きや仰向けに寝ていただいて検査を行っていますが、観察する場所によっては右向きになっていただく場合もあります。困難な場合は担当技師にお伝えください。

超音波検査（心臓領域）

Q：検査した臓器とは別の部位も見てもらえますか？

A：主治医からの依頼のもと、検査を行っていますので、基本的にはできません。また、調べる臓器や検査目的に合わせて、検査装置を調整していますので、別の部位の検査を希望する場合には、主治医へご相談下さい。

超音波検査（表在領域）

概要

皮膚上から超音波を体内に当てて、臓器や腫瘍の形態や機能を調べる検査です。

検査方法

検査対象の臓器や腫瘍がある場所に超音波プローブを当て、観察をします。

検査で分かること

検査内容により異なりますが、甲状腺、皮膚腫瘍、ヘルニアなどに対して検査を行っています。それぞれの臓器や腫瘍の大きさ・性状、血流の有無について調べます。

注意事項

- ・超音波用ゼリーを付けて検査しますので、観察する場所によっては検査着に着替えていただく場合があります。
- ・必要に応じて呼吸調整をさせていただくことがありますので、可能な限りご協力をお願いいたします。

所要時間

約 10～20 分程度 ※検査内容により異なります。

よくある質問

Q：被爆の心配はありませんか？

A：レントゲンや CT 検査のように放射線による被曝の心配はありません。妊娠中の方や乳幼児でも安心して受けることができ、繰り返し検査が可能です。

Q：検査は痛いですか？

A：基本的に痛みはありません。必要に応じて多少押すことがありますので、痛みがある場合には担当技師へお伝えください。

Q：ゼリーは何のために使うのですか？

A：皮膚と超音波プローブとのすき間をなくし、超音波が体内でよく伝わるようにしています。

Q：検査した場所とは別の部位も見てもらえますか？

A：主治医からの依頼のもと、検査を行っていますので、基本的にはできません。また、調べる臓器や検査目的に合わせて、検査装置を調整していますので、別の部位の検査を希望する場合には、主治医へご相談下さい。



超音波検査（腹部領域）

概要

皮膚上から超音波を体内に当てて、臓器や組織を調べる検査です。

検査方法

腹部に超音波プローブを当て、臓器や組織の観察をします。

検査で分かること

主に肝臓、胆のう、膵臓、腎臓、脾臓などお腹の中の臓器を観察します。それぞれの臓器の大きさや性状、腫瘍や結石の有無などを評価します。

注意事項

- ・検査前 6 時間程度は食事をお控えください。水やお茶（甘みのないもの）は飲んでいただいて構いません。
- ・医師から膀胱や前立腺、子宮、卵巣の検査を指示された場合、検査前の排尿はご遠慮ください。尿をためた状態で検査させていただきます。
- ・お腹に超音波用ゼリーを付けて検査しますので、上半身は薄手の衣服 1 枚程度とし、お腹が出るようにめくり上げていただきます。
- ・必要に応じて体位変換や呼吸調整をさせていただきますので、可能な限りご協力をお願いいたします。

所要時間

約 10～20 分程度

よくある質問

Q：被爆の心配はありませんか？

A：レントゲンや CT 検査のように放射線による被曝の心配はありません。妊娠中の方や乳幼児でも安心して受けることができ、繰り返し検査が可能です。

Q：検査は痛いですか？

A：基本的に痛みはありません。観察する臓器の場所によっては骨の間に超音波プローブを当てたり、必要に応じて多少押すことがありますので、痛みがある場合には担当技師へお伝えください。

Q：ゼリーは何のために使うのですか？

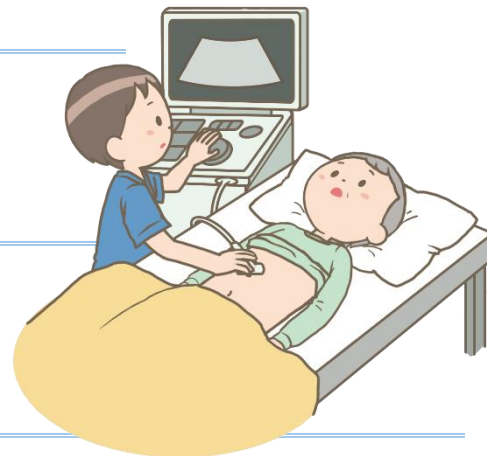
A：皮膚と超音波プローブとのすき間をなくし、超音波が体内でよく伝わるようにしています。

Q：なぜ呼吸調整をするのですか？

A：呼吸調整を行うことでより詳細に観察できる場合がありますので、可能な範囲で呼吸調整をお願いしています。

Q：検査の体勢は決まっていますか？

A：基本的に仰向けに寝ていただいて検査を行っていますが、観察する場所によっては横向きや座位で検査する場合もあります。困難な場合は担当技師にお伝えください。



超音波検査（腹部領域）

Q：検査した臓器とは別の部位も見てもらえますか？

A：主治医からの依頼のもと、検査を行っていますので、基本的にはできません。また、調べる臓器や検査目的に合わせて、検査装置を調整していますので、別の部位の検査を希望する場合には、主治医へご相談下さい。